

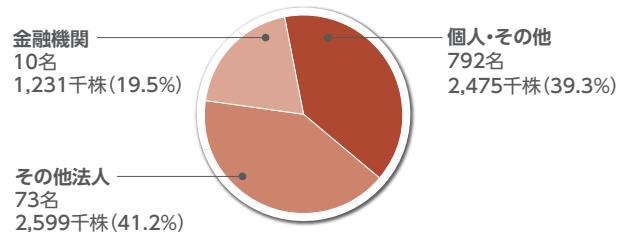
株式の状況

発行可能株式の総数	20,024,000株
発行済株式の総数	6,306,000株
株主の総数	875名

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、 電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。

普通株式所有者別状況



〈ご注意〉

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。  
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

より詳細な情報は弊社WEBサイトをご覧ください。

ヤマウ

検索

<http://www.yamau.co.jp/>

証券コード：5284

第61期 事業報告書

YAMAU REPORT 2018

2017年4月1日▶2018年3月31日

おかげさまでヤマウは設立60周年を迎えました。



株主の皆様には格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
 おかげさまをもちまして当社は本年2月に設立60周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。私たちヤマウはこれからも持続的な成長を目指し、また株主の皆様のご期待に応える会社として、これからも歩み続けて参ります。  
 引き続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2018年6月

代表取締役社長  
 小嶺 啓藏

## 60周年記念祝賀会を開催

2018年4月6日、設立60周年を記念して、福岡市内において取引先や同業者及び従業員など240人を招き、祝賀会を開催いたしました。

社長あいさつでは、全役員と社員が一丸となり、業界・市場の多様な変化に対応し、果敢に新しいことにチャレンジすると決意を示しました。



設立60周年記念祝賀会



代表取締役社長 小嶺啓藏



60周年を迎えるにあたり、60周年記念ロゴマークを制定しました。ロゴマークには、「今までもこれからも、地域に根差した会社でありたい」「当社の製品を通して、人々の暮らしを支え続けたい」という社員全員の想いをこめた「Follow your life ～国土づくりに60年、これからも地域とともに～」のメッセージを入れました。

**Q** 当期の市場環境、決算のポイント等について教えてください。

**A** 楽観視できない市場環境の中、着実に増収増益を確保することができました。

主要市場である九州圏内では、熊本地震の復興需要が続く中で公共投資が高水準で推移するなど、景気は緩やかに回復しております。しかしながら建設市場では、公共投資が中長期的には漸減傾向にあることに加え、耐震・老朽化対策などの既存インフラの維持管理や、防災・減災対策へシフトしているなどの楽観できない状況が想定されます。

このような経営環境の下、当社グループでは継続的な事業成長を目標に、引き続いて技術・開発力の向上や、生産性及び収益性の向上を目指して参りました。その結果、当期の主な連結業績は、売上高226億35百万円（前期比4.4%増）、営業利益5億1百万円（同1.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益5億53百万円（同46.6%増）となりました。

**Q** この4月からスタートした中期経営計画の概要についてお聞かせください。

**A** 中計3年間での取り組みを通じ、“小さくても強い”ヤマウを実現して参ります。

当社では、2021年3月期を最終年度とする3ヶ年の中期経営計画をスタートさせました。当中計では「『小さくても強い会社』を実現する」という基本方針の下、コア事業の開発力向上による進化などを骨子とした様々な成長戦略に取り組み、最終年度では、連結売上高250億円／経常利益9億円／ROA2.5%／ROE11.5%、の達成を目指しております。

当社グループでは社会的使命（ソリューションミッション）として、「インフラ整備にかかわるトータルソリューションサービスで、安心・安全なまちづくりに貢献する」を掲げております。この社会的使命の具現化のためにも、この3年間は成長ステージの基盤作りとして重要な期間としてとらえており、社員個々の能力向上並びに一致団結して事に当たる強いチームワークを発揮し、“小さくても強い”ヤマウを実現して参りたいと考えております。

**Q** 次期（2019年3月期）の見通しについてはいかがですか？

**A** コア事業の継続的な強化を利益確保へ着実に繋げて参ります。

今後におきましては、収益の主力である自社製品の売上が見込まれるインフラ新設工事から、既存設備の長寿命化・老朽化対策へ重点的に予算配分が推移していることや、原材料価格高騰の懸念から厳しい環境が続くものと予測されます。このような経営環境下において当社グループは、開発力向上、受注力・コスト競争力の追求等によるコア事業の強化を図るとともに、周辺事業の成長加速等に取り組み、利益確保に邁進する所存であります。

これら諸施策により連結業績につきましては、売上高227億円（当期比0.3%増）、営業利益5億10百万円（同1.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益4億円（同27.7%減）を見込んでおります。

**Q** 配当状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 会社設立60周年を記念した記念配当を実施させていただきました。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、安定配当の継続、また財務体質の強化と今後の事業展開のための内部留保を確保することを基本方針としております。

このたび当社は、2018年2月に設立60周年を迎えました。これもひとえに株主の皆様をはじめ関係各位のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。つきましては、株主の皆様のご支援にお応えするため、当期末に1株当たり3円の記念配当を実施させていただきました。これにより1株当たりの期末配当金は、普通配当8円に記念配当3円を合わせた計11円となります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



### ■ 連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成30年3月31日現在	前連結会計年度 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,974	12,821
固定資産	5,710	5,668
有形固定資産	3,827	3,745
無形固定資産	216	264
投資その他の資産	1,665	1,659
<b>資産合計</b>	<b>18,685</b>	<b>18,490</b>
負債の部		
流動負債	10,926	10,991
固定負債	2,940	3,724
<b>負債合計</b>	<b>13,867</b>	<b>14,715</b>
純資産の部		
株主資本	4,418	3,465
資本金	800	800
資本剰余金	735	313
利益剰余金	2,886	2,364
自己株式	△2	△13
その他の包括利益累計額	324	240
その他有価証券評価差額金	179	135
退職給付に係る調整累計額	145	105
非支配株主持分	74	68
<b>純資産合計</b>	<b>4,818</b>	<b>3,774</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>18,685</b>	<b>18,490</b>

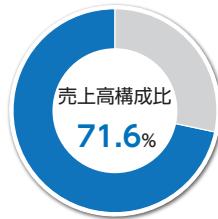
### ■ 連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで	前連結会計年度 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
売上高	22,635	21,677
売上原価	17,517	16,646
売上総利益	5,118	5,031
販売費及び一般管理費	4,617	4,535
営業利益	501	496
営業外収益	248	233
営業外費用	123	152
経常利益	625	576
特別利益	10	1
特別損失	36	18
税金等調整前当期純利益	599	559
法人税、住民税及び事業税	188	211
法人税等調整額	△150	△39
当期純利益	560	387
非支配株主に帰属する当期純利益	7	10
親会社株主に帰属する当期純利益	553	377

### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで	前連結会計年度 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	600	803
投資活動による キャッシュ・フロー	△472	△296
財務活動による キャッシュ・フロー	△378	42
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△250	549
現金及び現金同等物の 期首残高	2,768	2,219
現金及び現金同等物の 期末残高	2,518	2,768

■ **コンクリート製品製造・販売事業**



売上高 **162億 36**百万円  
(前年同期比3.7%増)  
営業利益 **2億 93**百万円  
(前年同期比3.8%減)

コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、主要市場である九州圏内において、長寿命化・老朽化対策等へ予算配分が推移していく中、主力の土木製品群を中心に受注強化に継続的に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、162億36百万円（前年同期比3.7%増）となりましたが、運送コストの増加等によりセグメント利益（営業利益）は2億93百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

— **コンクリート製品のご紹介**

■ **土木製品**

土木部門では、環境問題への関心の高まりや熟練工不足による省人化問題の解決に向け、「現場打ちのプレキャスト製品化」を提案し施工現場の作業改善や工期短縮に貢献しています。



CV織

■ **建築関連製品**

後付エレベーター昇降路[Fine uni(ファインユニ)]は、既存建物の物理的バリアを解消し、入居者の高齢化が進む共同住宅や、車椅子対応を進める教育施設・歩道橋等への今後の需要が見込まれています。



ファインユニ（後付エレベーター昇降路）

■ **景観製品**

多彩な表情を持つヤマウの景観製品は自然環境に広がりとお行きを与え、開放感やスケール感を損なうことなく美しい景観を演出します。

■ **レジンコンクリート製品**

耐摩耗性、耐薬品性、耐水性などに優れ、美観とともに強度や耐久性の両面が必要とされる環境条件に最適な製品です。

■ **コンクリート構造物の点検・調査、補修工事業**



売上高 **6億 55**百万円  
(前年同期比39.9%増)  
営業利益 **94**百万円  
(前年同期比229.1%増)

コンクリート構造物の点検・調査、補修工事業の売上は、橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査業務の請負、補修・補強設計業務の請負によるものであります。

当連結会計年度においては、コンクリート構造物の点検・調査、補修工事業の売上高は、補修工事の増加により6億55百万円（前年同期比39.9%増）、セグメント利益（営業利益）は94百万円（前年同期比229.1%増）となりました。

■ **水門・堰の製造及び施工並びに保守事業**



売上高 **32億 11**百万円  
(前年同期比10.9%減)  
営業利益 **23**百万円  
(前年同期比83.1%減)

水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上高は、受注環境の悪化等により、32億11百万円（前年同期比10.9%減）となりました。損益面では下半期に工事が集中したことによる外注費等コストの増加により、セグメント利益（営業利益）は23百万円（前年同期比83.1%減）となりました。



起伏ゲート

■ **地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業**



売上高 **21億 44**百万円  
(前年同期比30.5%増)  
営業利益 **72**百万円  
(前年同期比346.0%増)

地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業の売上は、地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計業務によるものであります。

当連結会計年度においては、自社施工割合を高めて参った結果、地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業の売上高は21億44百万円（前年同期比30.5%増）、セグメント利益（営業利益）は72百万円（前年同期比346.0%増）となりました。



法枠工・法面緑化工

■ **情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業**



売上高 **4億 2**百万円  
(前年同期比16.0%増)  
営業利益 **6**百万円  
(前年同期比34.1%増)

情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守、LED照明の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上高は4億2百万円（前年同期比16.0%増）、セグメント利益（営業利益）は6百万円（前年同期比34.1%増）となりました。

# より安心でより快適な生活環境づくりに貢献するヤマウの製品

## 擁壁類



パワーロックII

## 道路類



プレガードII

## 建築関連

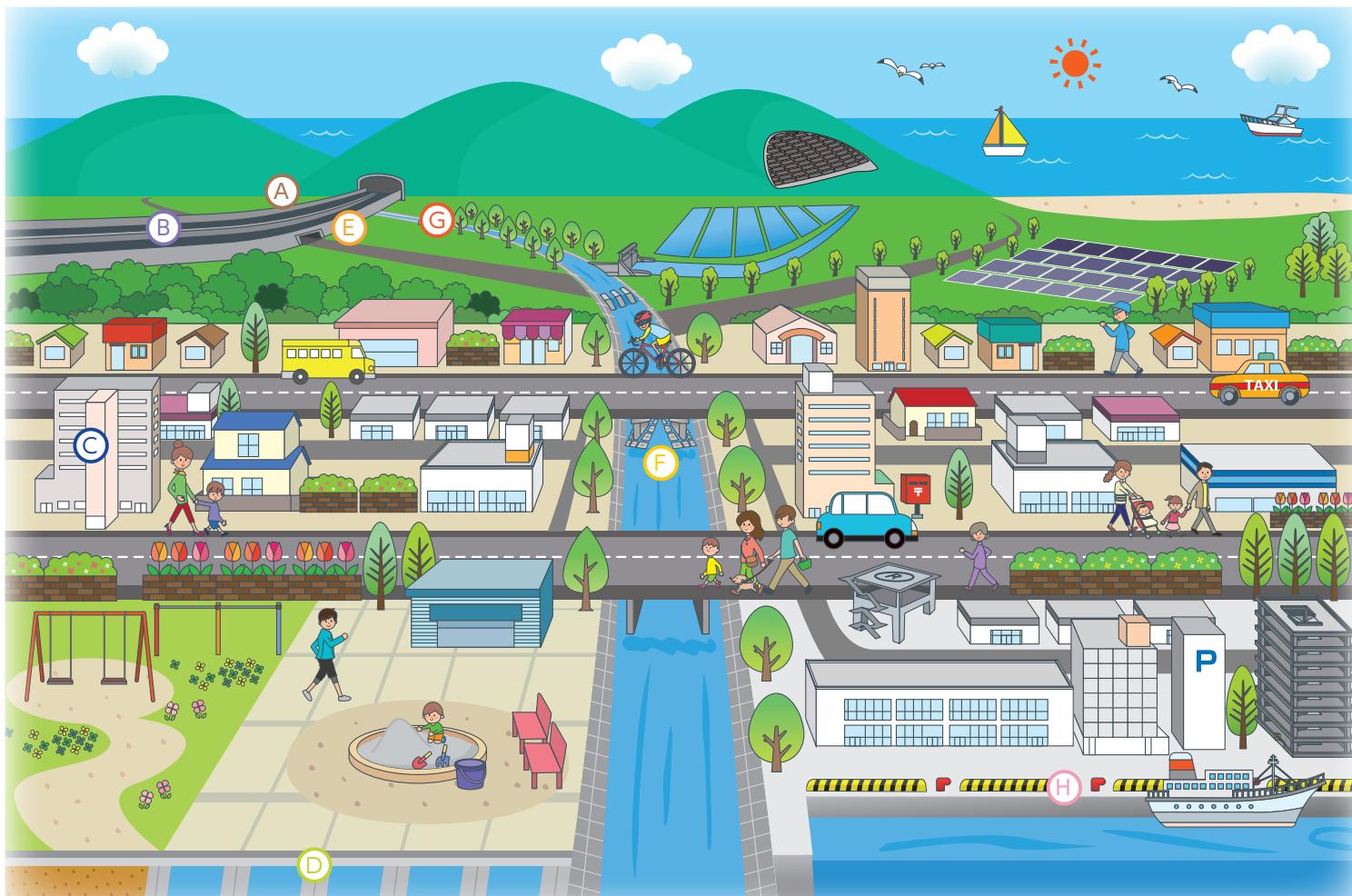


ファインユニ (後付エレベーター昇降路)

## 貯留浸透類



アクアボンドS型 (プレキャスト雨水貯水槽)



## カルバート類



スパンザオール工法

## 河川港湾類



CV護

## 災害復旧



CVハーフ

## レジンコンクリート製品



カーストップ・係船柱

## I 経営理念

◇ ヤマウフィロソフィ

社 是[ヤマウの目的・存在理由]

わが社は、事業活動を通じて社会に貢献することを使命とし、顧客の満足度を高め、会社の発展と社員の幸福を実現する。

◇ 当社グループの社会的使命 (ソリューションミッション)  
インフラ整備にかかわるトータルソリューションサービスで、安心・安全なまちづくりに貢献する。

## II 基本方針

『小さくても強い会社』を実現する。

当社グループの社会的使命実現のため、2018年度からの3年間は、成長ステージの基盤作りの3年間ととらえ、経営資源の再配分、社員個々の能力向上並びに一致団結して事に当たる強いチームワークにより、生産性や技術力の向上を図り、効率的で利益の出る会社を目指す。

## III 数値目標 【2021年3月期の目標】

連結目標		個別目標
売上高	250 億円	売上高 158 億円
経常利益	9 億円	経常利益 4.7 億円
ROA	2.5 %	
ROE	11.5 %	

## IV 株主還元方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置付け、安定配当の継続を基本方針としております。2021年3月期には、配当性向30%以上を目指します。

- 本 社 福岡
- 営 業 所 福岡、久留米、北九州、筑豊、佐賀、長崎、大分、大分北、宮崎、延岡、高鍋、都城、鹿児島、鹿屋、川内、霧島、沖縄、関東事業部、熊本ヤマウ(旧熊本営業所)
- 工 場 福岡、北九州、佐賀、大分、川南、REC、高崎、鹿児島、長崎



本社・福岡工場



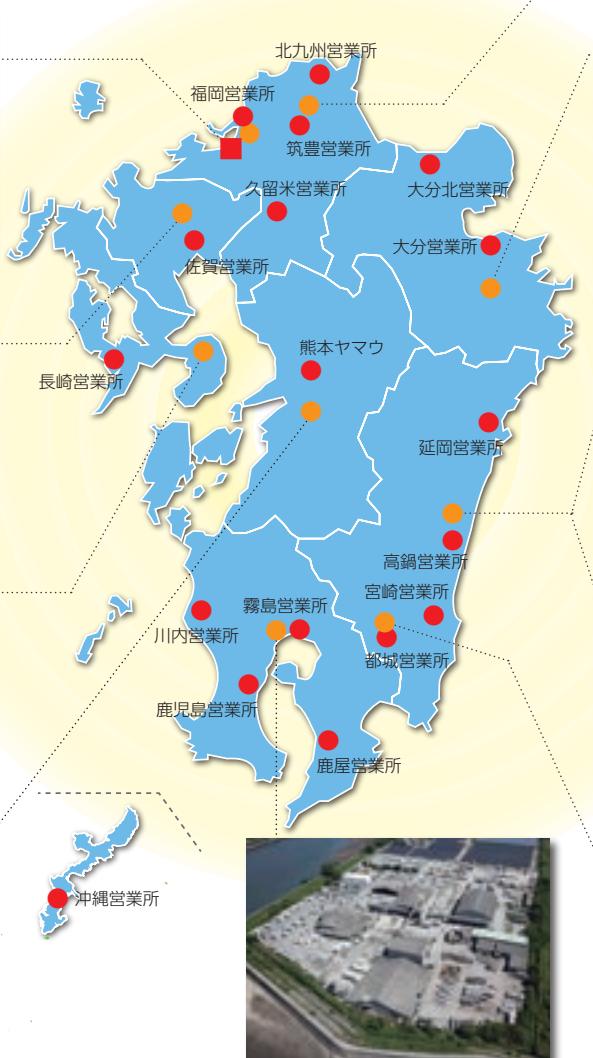
佐賀工場



長崎工場



熊本工場(協力工場)



鹿児島工場



北九州工場



大分工場



川南工場



REC工場



高崎工場

会社概要

商 号	株式会社ヤマウ
本 社	福岡市早良区東入部五丁目15番7号
創 業	昭和28年10月
設 立	昭和33年2月
資 本 金	8億円
代 表 者	代表取締役社長 小嶺 啓藏
従 業 員	215名 (平成30年3月31日現在)

会社役員

代表取締役社長	小 嶺 啓 藏
取締役会長	権 藤 勇 夫
取締役専務執行役員	伊 佐 寿 起
取締役常務執行役員	中 村 和 義
社外取締役	吉 岡 東
常勤監査役	隈 江 芳 博
社外監査役	長 野 紘 一
社外監査役	右 田 國 博

子会社一覧

(株)ヤマウトラスト	製造業務請負事業、鉄筋加工事業、コンクリート製品用型枠の製造・販売並びに改造・修理
九 ン 販 売 (株)	コンクリート製品仕入販売事業
大 分 フ ジ (株)	コンクリート製品製造・販売
宮 崎 プ レ コ ン (株)	コンクリート製品製造・販売
(株) 熊 本 ヤ マ ウ	コンクリート製品製造・販売
開 成 工 業 (株)	水門・堰の製造、施工及び保守
大 栄 開 発 (株)	地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計
メ ッ ク (株)	コンクリート構造物の点検・調査業務、補修・補強設計業務、補修工事業務、補修・補強材料販売業務
(株) リ ペ ア エ ン ジ	一般土木工事並びにコンクリート構造物等の補修・補強工事
光 洋 シ ス テ ム 機 器 (株)	情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売